

EASt-all の皆様

私も第1回他職種研修会の感想をお伝えします。

当日は2点ほど質問させていただきました。

① 本人・家族の間で治療や終末期の方針が異なる場合は？

A：オランダでも個人の意思と家族の思いが異なるケースはあるが基本的には「個」としての希望が最優先で、単身生活でも自宅での治療という考え方が一般的。ご家族の希望と食い違っても本人の意思が優先であることは家族も了承している。本人に内緒とか、本人抜きで家族と相談することはない。ご本人の意思が確認できない場合でも本人ならどうしたいかが議論の中心になるということで全体の認識が一致している(私個人としては、これは個人としての自立性と尊厳を重んじるという価値観が浸透している社会的背景が大きいように思われた)。

② カンファレンス参加者が対等な議論を行いよい結論を出すためには？

A：全体で目標とするところは何かを確認しながら決めるのではなく自由に意見を出し合ってその中から最大公約数的な議論のまとめとしての結論を出すような話し合いを目指す。オランダでは学校教育の中でもこのタイプの話し合いは教育の根幹として多数行われるとのこと。

「個人を尊重する対応」を実践するにはどのような行動なのか、他職種が対等に意見を自由に述べ合える関係とカンファレンスのあり方は・・・など具体的に何から実践できるのかを考えさせられました。社会的成熟や個人としての自我の確立など教育や政治的な問題を含んだ深めればきりが無い問題ですけれど、講演では具体的な事柄を示すことでわかりやすく示して頂きました。少し視野が広がって、毎日の仕事と生活面での家族との関係性を見直すきっかけになりました。このような講演は直接自分と関係ないように見えて普遍的な事柄を伝えているので、逆に冷静に自分の周囲の日頃あいまいにしていた問題点をはっきりと理解できるヒントになるように思います。

長くなりました。講演をして頂いたりヒテルズさんは勿論、企画していただいた皆様ありがとうございます。

福岡みらい病院

佐久川明美